１．野球検診の概要

１）野球肘検診の必要性

　野球肘検診は1982年より徳島大学が中心となり徳島県の学童野球選手対象に行われています。この活動に倣い現在では日本各地でも野球肘検診が実施されるようになってきました。野球肘の中でも学童期に発生する「離断性骨軟骨炎」という疾患があります。これは発症時には痛み等の症状が無く、気付いた時には進行して手遅れになっているというものです。将来を担う子ども達が骨軟骨傷害で野球を断念することがないようにサポートしていくことが、野球界のレベルアップにもつながると考えております。そのためには野球界と医療界が一体となった「強い子どもの育成」は不可欠です。その具体化のひとつが野球検診ですので、是非ご参加頂きますようお願い申し上げます。詳細は別紙「知っておきたい野球肘」「野球肘検診について」をご覧下さい。

２）理念

①医療の支援により安心して野球ができる環境を構築し、地域の野球発展のために寄与する。

②成長期の野球肘傷害を早期に発見し、予防することで子どもの夢の実現を支援する。

３）内容

①野球肘傷害に対し、現状と正しい知識を持ってもらう。

②超音波装置を使用し、主に肘の障害発見に努める。

③全身の理学的所見から障害の有無を調べ、対応を指導する。

４）検診の流れ

　まず趣意書を問診用紙とともに指導者・保護者に渡し、検診への参加を呼びかけます。検診をした後、診察が必要と判断された選手の保護者に「診察の必要性」についてお知らせします。①～③が検診前に行うことで、④～⑦は検診当日の内容です。

1. **事前承諾：**

検診を受ける選手のチームの指導者・保護者への趣旨説明。検診の最初に意義などを説明するが、事前に野球肘に関する文書を渡し読んで頂く。

1. **問診用紙：**

効率良く検診を行うため配布した問診表にご記入お願いいたします。

1. **同意書：**

検診活動をご理解いただき、賛同していただけた本人、保護者の方にサインをいただきます。

1. **検診（超音波）：**

現在痛いところ、または障害が生じやすい場所を中心に問診と超音波検査を行います。超音波は痛みや被爆が全くない手軽で安全な検査で、骨や軟骨、筋肉、靭帯の評価に使用します。

1. **野球技術＋トレーニング指導：**

野球選手やトレーナーなどが正しい運動の方法などを分かりやすく指導します。

1. **医療相談：**

すでに障害をお持ちの選手に関しては、整形外科医が医療相談を受け付けます。

1. **診察のお勧め：**

検診で医師の診察が必要と判断された選手には、診察についてご案内します。

５）検診の概要

**①対象**：小学５・６年生、中学１年生とする。約100名の予定

小学５・６年生に骨軟骨傷害の発生が最も多いです。

理想的には小学５・６年生、特にリスクの高い投手・捕手などは年２回検診できればより安心です。

**⑦時間**：選手50名につき約１時間ですが、参加人数により検者数を増やすなど効率よく進めるための対応は可能です。

**③経費**：最初は検診の理解が十分ではないので無料です。

６）運営責任者

７）主催

８）日時・場所

９）スケジュール

１０）スタッフ

　今回、初の野球検診を実施するにあたり、各地で野球検診活動をされている先生方のお力添えを頂き、今後この地域においても継続的に実施できるよう指導して頂きます。また、子ども達への野球技術＋トレーニング指導を　　　硬式野球部の選手にお願いしました。

１１）治療協力医療機関・整形外科医名（野球肘対応可能医院）